

【書く・なぞる】俳句 杉田久女 四

夏川を 上りゆく子や 日傘さし

旅人の 傘さし行けり 野分あと

露の世や 廃園の木の 影ばかり

初雪の 紙の如くに 降りにけり

涼しさや 紙をはぐ音 人の声